

【質問内容】

1. U I ターンと半農半Xについて
2. I Tによる情報発信とI C T教育について
3. ロコモ対策について
4. 道路標識等の点検について

4番作野幸憲議員、質問席へ移動願います。

〔4番 作野幸憲君 質問席〕

▼○議長（田中武夫君）▽ なお、一般質問に際して作野議員からパネル等の使用の申し出がありましたので、これを許可します。

作野議員の質問時間は50分間です。午後2時20分までです。

作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 議席番号4番作野幸憲でございます。

それでは、早速一般質問をさせていただきたいと思えます。

今回4つの項目についての質問をいたしますので、よろしくお願い申し上げます。

最初に、「U I ターンと半農半Xについて」質問をいたします。

先月上京した折、時間ができましたので、ことし3月にJ R東京駅八重洲中央口から徒歩約5分のところにオープンいたしました「移住・交流情報ガーデン」に急遽立ち寄ってみました。

まず、入って島根県の資料が置いてある場所に行きますと、3・4種類のパンフレットしか置いてありませんでしたが、その中に11月28日、29日に開催されるこの「アグリ体験セミナー i nやすぎ」のパンフレットがございました。パンフレットがあっただけでも何だかうれしいような気持ちになりました。ここ「移住・交流情報ガーデン」は、総務省が地方への移住関連情報の提供、相談支援の一元的な窓口として開設した施設で、入場、相談無料、随時受け付け、予約不要で、施設内は移住、就農、仕事などをサポートしてくれる相談コーナーと、情報サイト「全国移住ナビ」を利用して自由に地方への移住交流に関する情報を検索できるスペース、そして各自治体が作成した移住交流に関するパンフレットが置いてある地域資料閲覧コーナー、また自治体の主導する移住相談会や移住に関する情報を提供するセミナー、地域のP Rイベントが開催できるイベントセミナースペースに分かれております。イベントセミナースペースでは、毎月多くの全国の自治体の相談会や説明会が行われています。

そこで、スタッフの方にU I ターンの状況等についてお聞きいたしました。ここのスタッフにはふるさと島根定住財団より派遣された方もおられ、その方とも意見交換することができました。その方によると、島根へのU I ターンを考えている人の半数以上は農に興味を持って尋

ねてこられるとのことでした。安来市は、今回の総合戦略の中で平成26年のU I ターン者28人を毎年126人にするという高い目標を立てておられます。

そこで、今回は農業関係に絞ってお尋ねしたいと思っております。

まずは先ほど紹介した、ことしも実施された「アグリ体験セミナー i n やすぎ」の過去の参加者は何人おられますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 石井産業振興部長。

▼○産業振興部長（石井信行君）▽ アグリ体験セミナーは、毎年農業に興味のある方や就農を希望されておられる方を対象に市内で農作業の体験を行う1泊2日の体験セミナーでございます。近年の参加者の状況を申し上げますと、平成24年度が3名、25年度が8名、26年度が5名となっております。参加者からは毎年ご好評をいただいているところでございます。また今年度は、先ほど議員申されましたけど、先月の28日、29日の2日間で開催したところでございますけども、関東、関西圏域から計5名の方にご参加いただいたところでございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 県やふるさと島根定住財団などさまざまな研修制度や支援制度がありますので、把握は難しいかもしれませんが、わかる範囲で安来市への農業関係のU I ターン者の過去5年間の活動を教えてください。

▼○議長（田中武夫君）▽ 石井部長。

▼○産業振興部長（石井信行君）▽ 過去5年間ですと、市の研修制度として新たに市内に就農されたU I ターン者は9名でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それでは、先ほど答弁いただいた9名の方の出身地域の内訳はどうなっておりますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 石井部長。

▼○産業振興部長（石井信行君）▽ I ターンにつきましては、関東圏域から2名、それと関西圏域から1名、中国圏域から2名、島根県内のほかの市町村から2名の計7名でございます。また、Uターンにつきましては、関東圏域から1名、中国圏域1名の計2名となっております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それでは、年代はどのような方が年代別になっておりますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 石井部長。

▼○産業振興部長（石井信行君）▽ 年代別では、30代が8名、40代が1名となっております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ その中で何を栽培、生産している人が多いですか、教えてください。

▼○議長（田中武夫君）▽ 石井部長。

▼○産業振興部長（石井信行君）▽ 9名の方々の経営作物につきましては、花卉が4名、野菜4名、イチゴが1名となっております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 自営就農や後継就農、雇用就農、半農半Xなど、就農形態はいろいろあると思いますが、どの形態にどれだけの方がおられますか、お答えをお願いします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 石井部長。

▼○産業振興部長（石井信行君）▽ 農業を専従する自営就農が6名、それと雇用就農が3名となっております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ それで今、私が一番注目しているのが新規就農者がみずから兼業し、所得を確保する考え方の「半農半X」でございます。島根県も支援しているこの「半農半X」は、これまで支援してきた自営就農、雇用就農という就農形態に加え、いわゆる兼業就農される方を支援するものです。事業の対象となる方は県外からのU I ターン者で、年齢65歳未満などの要件をクリアし市町村の認定を受けられた方で、支援の内容は、営農に必要な研修期間中の研修経費等を助成する就農前研修経費助成事業と定住して営農を開始した場合の営農経費等を助成する定住定着助成事業であります。助成額は、いずれも月額12万円で12カ月以内となっております。営農計画、生活モデルのイメージとしては、例えば農業の所得目標100万円プラス兼業所得目標に200万円という感じで、農のある暮らし、農村の豊かさを実感しながら兼業で必要な現金収入を確保するという形です。

そこで、半Xの部分、つまり兼業をどうするか、どう提供してあげるのが問題になってくると思います。県が提案、募集する具体的な職種は、看護、介護、保育、蔵人、そのほかにも農業法人での雇用や牧場、土木作業員など、各自治体によってさまざまな提案が出てきています。

そこで、お尋ねをしたいと思います。

県が提案募集する具体的な「半農半X」の中の実践可能な半農半看護に安来市立病院、安来市医師会病院、日立記念病院の市内3病院がありますが、安来市内における半農半看護の現状はいかがでございますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 岩見健康福祉部次長。

▼○健康福祉部次長（岩見喜久子君）▽ 島根県では、この半農半看護のライフスタイルを新たな医療人材確保の切り口としても提案しております。安来市では、3つの医療機関が実践可能な医療機関として登録されておりますが、現在までのところこの制度の利用者はございません。また、3病院や安来市への問い合わせも今のところはありません。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 看護師さんの男女比率からいっても、女性が農業をしながら兼業として看護師をするというのは、現実としてなかなかこれは難しいかなとは思っております。

た。実際に農のある暮らし、農村の豊かさを実感しながら田舎で生活するためには、最低限の収入は必要になってきます。「半農半X」は、先ほども説明したように新規就農者がみずから兼業し、収入を確保する考え方です。私は、世帯で定住していただく場合には世帯全体の所得確保がとても重要だと考えております。これからはご夫婦で移住された場合など、農業に従事される方以外でも雇用情報を提供するなど、世帯での兼業を考えていかなければならないと思いますが、安来市の方針はいかがでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 石井部長。

▼○産業振興部長（石井信行君）▽ ご夫婦あるいは家族連れで定住される場合は、夫婦そろって何らかの職業につき働かれれば世帯全体の所得が確保でき、早期の生活安定が実現できます。また、看護や介護、保育など地域で不足している職種の人材確保にもつなげていく効果も期待できます。例えば、ご主人が半農半X制度を活用して移住いただくような場合には、奥さんの就業につきましてもお考えなどを伺い、希望があれば今年度設置されました安来市雇用情報連絡会議を中心に関係部署や関係機関等と連携して対応してまいります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今安来市雇用情報連絡会議ということを言われましたが、私余り聞きなれない言葉でございましたので、これについて説明できれば説明していただきたいと思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田政策企画部長。

▼○政策企画部長（横田一道君）▽ 雇用情報連絡会議についてでございますけども、安来市に定住を希望される方に対し提供をする雇用情報に関係機関及び団体で共有し、定住促進を図るために今年度より設置したものでございます。市の定住企画課が事務局であり、商工観光課、農林振興課のほうで安来商工会議所、安来市商工会、産業サポートネットやすぎ、JAしまねやすぎ地区本部担い手支援センター、松江公共職業安定所、安来市出張所で構成をしております。平成27年8月19日に第1回目の会合を開催し、それぞれの組織の取り組みなどについて情報交換を行ってまいりました。今後とも連絡を密にして、協力して定住促進を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 私は、ことしの10月13日に松江市内で開催された「平成27年度島根県中山間地域研究センターの研究フォーラム」に行ってまいりました。この中の発表で、「定住に必要な生活費と地域経済循環による所得創出の可能性」というテーマのものがありませんでした。ここでは「田舎暮らし設計」というソフトが紹介をされました。このソフトは、田舎暮らしを「考えている」「始めている」方の収入や貯蓄計画、支出などを予想するソフトで、家計設計を助けてくれるものです。また、自治体が定住政策や子育て支援政策、産業政策を設計する場合のシミュレーションソフトとしても使えるようでございます。私は、このようなソフトも利用しながらよりきめ細かいサービスを提供することも必要だと思っております。私はも

ともと安来市は農業におけるU I ターンでは先進地域だと思っております。安来地域担い手育成総合支援協議会が発行している「やすぎ就農ブック」を見ても、安来市にはいろいろな支援制度があり、半農半Xも含め、新規就農者を受け入れる体制は他市町村に比べても充実していると思います。また、総合戦略の中にもU I ターンで新規就農する世帯を対象に、課題だった「定住農家住宅」の建設も新規事業として計画をされております。これらを考えれば、農業分野での雇用の場の確保、創出も、過去5年間の新規就農者9人から総合戦略の向こう5年間の20人などとは言わず、大幅にふやせると考えます。いや、これはふやしていただかないと将来の安来の農業は見えてこないかなとも思っております。今回の答弁を聞いても、安来農業の傾向と強みもわかりましたし、当然担当部局もそれをわかってやっておられると思いますので、全力で頑張ってくださいと思います。その一方で、大きな課題が残されていると思います。それは情報発信の問題です。

それでは、2つ目の項目、「ITによる情報発信とICT教育について」の質問に移りたいと思います。

まず、「ITによる情報発信について」お尋ねいたします。

10月に策定された安来版総合戦略の基本的な考え方に、素案になかった「情報の発信」が後から打ち出されました。私の中では、情報発信にやっと本腰を入れられるのかなという感じで受け取ったところでございます。以前からさまざま場面で多くの方が情報発信については指摘をされておられました。しかしながら、遅々として進んでまいりませんでした。私は、人口減少対策をどうするかは「自治体間の情報発信の競争」だとも思っております。

そこで、お尋ねしたいと思います。

安来市のホームページやフェイスブックなどのSNSなどの情報発信の見直しはいつから取り組まれますでしょうか、お願いをいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策企画部長（横田一道君）▽ 見直しの件でございますけども、ホームページやSNSなどの情報発信の見直しにつきましては、庁内若手職員を中心としたプロジェクト会議を立ち上げております。11月に1回目の会議を開き、検討を始めたところでございます。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 私が思いますに、今盛んに使われているフェイスブックはリアルタイムに近い情報発信が得意です。この特徴を生かし、詳しい情報が載っている市のホームページへ誘導していくような手法も念頭に置いて見直しを考えていただければと思います。

また、総務省の平成26年版情報通信白書では、我が国のスマートフォンの保有率は53.5%、携帯電話が28.7%、タブレットが17.3となっています。この数字を見ても、スマートフォンとタブレットの保有者に対するホームページ対策は喫緊だと思っております。当然現在のスマートフォンやタブレットから安来市のホームページを見ることはできますが、これが通常パソコ

ンで見ている画面と違い、メニューもなく使い勝手が非常に悪いです。このことも含め、スマートフォンやタブレット向けの安来市のホームページの見直しはどう考えておられますでしょうか。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策企画部長（横田一道君）▽ スマートフォンやタブレット用のホームページにつきましては、現在進めておりますホームページリニューアルに合わせ、見直しを予定をしておるところでございます。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ その際には、パソコン画面と同じ画面を見れるようにお願いをしたいと思います。

次に、「安来市の情報を発信してもらっている外部サイトについて」お尋ねをしたいと思います。なぜこのような質問をするかといいますと、安来市の情報を発信してもらっているサイトの情報が、古いものが物すごく多いです。これを改善しなければ安来市のマイナスにつながることにもなりかねません。「情報は鮮度と正確性が命」なんです。

そこで、お尋ねをします。

市のホームページ以外に情報を発信してもらっているサイトも相当数あると思いますが、その数は把握しておられますでしょうか。また、そのチェック体制と更新体制はどのようになっていますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策企画部長（横田一道君）▽ 市のホームページ以外で逐次お願いをしておるサイトは、11月30日現在で38サイトございます。そのうち21サイトが担当課がチェックし、更新依頼を行っております。イベント告知などの期限つきで掲載を依頼しております17サイトについては、サイトごとが更新されるため、チェックは行っていません。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 先ほど1つ目の項目の中で、「移住・交流情報ガーデン」に「アグリ体験セミナー in やすぎ」のパンフレットがあり、非常にうれしかったことをお話ししましたが、帰ってからこのサイトのページを見てみますと、昨年開催されたアグリ体験セミナーのパンフレットが表示されていました。これは一例ですが、これが今の安来市の情報発信の現状だと私は思います。私は3年前の12月定例会で「情報発信の一元化」ということを提案しております。このときの提案は、「情報化が進んだ現在においては1カ所がまとめて情報を発信することがベストだと思う、ホームページ一つとっても専門性のある職員が責任を持って発信しないと、迅速かつ正確な情報が伝わらない可能性も出てくると思う、私は広報を担当している部署がそれに当たるのが一番だと考える、広報紙との整合性なども考慮し、交流センターなどのホームページによる地域情報の発信についても個々のセンターに任せるのではなく、

安来市の地域情報として責任を持っていただきたいと思う」という提案をさせていただきました。このときもちょうど翌年3月にホームページのリニューアルを計画しておられる時期でありました。今回と同じような状況です。しかしながら、そのときは情報発信の一元化は実施されませんでした。私は、今回は必ず外部サイトのチェック体制やフェイスブックも含め情報発信の一元化などの抜本的な改革が必要だと考えます。それがなければ安来市のさまざまな政策で大きな影響が出ると思いますし、進むものもうまく進まないと思います。3年前のリニューアル時とまた同じ結果になってしまうような気がします。私は外部発注があってもよいと思っております。

そこで、お尋ねをしたいと思います。

今後の情報発信の体制はどのようにされるおつもりでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 横田部長。

▼○政策企画部長（横田一道君）▽ 今後の情報発信の体制、特に一元化につきましては、先ほど議員の提案も踏まえ、情報発信担当の秘書課とシステムを管理いたします情報政策課で、ホームページリニューアルに合わせて対応できるよう検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ しっかりとじっくりと時間をかけてでもいいですので、検討していただければ素晴らしい情報発信体制を、ぜひとも今回は確立していただきたいと思います。

次に、「ICT教育について」お尋ねをいたします。

この質問も3年前の12月定例会で、「学校の電子黒板等の活用状況について」ということで同じような趣旨の質問をしております。このときも、「パソコンなどのハードの入れかえなどは順次していくが、利活用となるとそれぞれの学校で大きな差があるのではないか」という質問をしました。その後、どのように進展しましたでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 奈良井教育部長。

▼○教育部長（奈良井丈治君）▽ 安来市の各学校においては、ICTを活用した授業等、全ての学年で児童・生徒の発達段階に応じて実施をしております。市内の小学校では、主に社会科、総合的な学習、中学校では技術、社会科、総合的な学習の時間にインターネットを利用した情報収集、ワープロのソフトを使った文書作成などでICT活用を行っております。高学年や中学校ではプレゼンテーションソフトを使ってプレゼンテーションを行う場合もあります。また、書画カメラや電子黒板を整備し活用することにより、児童・生徒が意欲的、主体的に学習に取り組むようになっております。また、各小・中学校において、算数、数学や数学のグラフや図形等の学習、音楽の合奏や合唱、小学校の外国語活動などの授業で効果的に活用されております。ICTを安全に活用するための情報モラル教育も、全小・中学校で実施しております。ICTを活用した授業は、児童・生徒の発達段階に応じて行っているため、各学校におけ

る利活用状況は現在も一様でないと認識しておりますが、いずれの学校においてもパソコンや書画カメラなどの活用は進んでおります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 前回聞いたときよりは一定の進展があったのかなと思いました。

先月17日に「社日小学校と韓国密陽市守山初等学校の姉妹校交流10周年記念」があり、私も出席させていただきました。その中で、出席者の中から、今までの交流のほかにもインターネットを介した国際交流がしたい旨の話がございました。私は今の安来市のネット環境を考え、「そんなことは簡単にできるんじゃないですか」とお答えしましたところ、その方からは、「安来市側の問題で現在できないようです」というお話を聞きました。ITを活用した国際交流は1990年代半ばから始まり、テレビ会議などさまざまな方式で現在も進められています。個人的な交流もスカイプはもちろん、最近ではラインのテレビ電話機能などを使って盛んに行われているのが現状です。グローバル人材を育てるという面からも、安来市の小・中学校でも強ちに私は推進すべきだと考えますが、小・中学校におけるネットを介して国際交流できる環境の整備はどのようになっておりますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 奈良井部長。

▼○教育部長（奈良井丈治君）▽ 現在小学校で9校、中学校で3校の学校がホームページを公開しており情報を発信しておりますが、現在のところICTを利用した国際交流までは行っておりません。ICTを活用した国際交流は環境上可能ですが、実際にICTを利用した国際交流を行うに当たっては、相手側の状況や考えを踏まえ、ICT活用の狙いや具体的な活用方法を整備する必要があると考えております。今後学校と十分に検討していく考えであります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ やりたい学校にはそういう教育をできるような環境を与えていただきたいと思います。今幼稚園から英語教育ということを安来市はやっておられるわけですから、それが小学校、中学校に行っても反映できるような交流がこれからとても必要になってくると思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、3つ目の項目、「**ロコモ対策について**」質問をいたします。

最近テレビの特保飲料のコマーシャルなどでもロコモという言葉が使われるようになってきました。ロコモとは「ロコモティブシンドローム」の略で、日本語では「運動器症候群」といい、運動器の障がいのために移動機能の低下をきたした状態をあらわします。簡単に言いますと、「片足立ちで靴下履けない」、「家の中でつまずいたり滑ったりする」、「階段を上るのに手すりが必要である」、「横断歩道を青信号で渡り切れない」、「15分ぐらいしか続けて歩けない」、「2キロ程度の買い物をして持ち帰ることが困難」、「家のやや重い仕事が困難、掃除機の使用や布団の上げおろしなど」です。今紹介した7つのうち1つでも当てはまれば、ロコモである心配があるそうです。2007年、日本整形外科学会は、人類が経験したことのない超高齢化社会、日本の未来を見据え、このロコモという概念を提唱されました。世間に認

知されているメタボとの違いは、メタボは「内蔵の病気」、ロコモは「運動器の障害」と考えてください。また、ロコモは「メタボ」と「認知症」と並び、「健康寿命の短縮」、「寝たきりや要介護状態」の3大要因の一つともなっております。

そこで、お尋ねをいたします。

市内にロコモである可能性の方はどれくらいおられますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 岩見次長。

▼○健康福祉部次長（岩見喜久子君）▽ ロコモである可能性のある方ですが、直接このロコモについての統計はありませんので、昨年度第6期高齢者福祉介護事業計画を策定するために、その事前にとりました日常生活圏域ニーズ調査でお答えしたいと思います。

住民基本台帳から無作為抽出しました65歳以上の方で回答をいただいた約2,000名のうち、要介護認定を受けていない方が約1,700名、この1,700名中運動機能低下が認められた方が227名、13%という状況でございました。65歳以上の要介護認定を受けていらっしゃらない方の10人に1人以上の頻度で運動機能低下があると推測されます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今はそういう答弁をいただきましたが、日本整形外科学会の推計では、変形性関節症と骨粗鬆症に限っても患者数は全国で4,700万人とのことで、安来市にも先ほどの答弁とは違って相当数の方がおられると私は思っております。

そこで、お尋ねをしたいと思っております。

安来市では「健康やすぎ21」などでも「ロコモ」という言葉は余り聞かれませんが、安来市のロコモ対策の現状はどのようになっておりますでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 岩見次長。

▼○健康福祉部次長（岩見喜久子君）▽ 市のロコモ対策でございますが、ロコモシンドロームの対策にかかわらず、生活習慣病、認知症予防なども踏まえまして運動事業として展開しています。幅広い年代に参加いただいております各地区主催のウォーキング大会や運動教室の支援を行うとともに、健康教室、生活習慣病セミナー、健康相談等、各種保健事業の中で運動の普及啓発を行っています。また、ミニデイ、ミニサロン等各地域で行われている高齢者の介護予防事業の場でも運動に取り組んでいただいております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ ちょうど来年度から第3次の「健康やすぎ21」がスタートするわけでございますので、ロコモ対策も、ロコモもしっかり言葉としても入れていただければ今の時代の計画になるかなと思っております。

そこで、どうやって市民の皆さんにロコモ対策が必要かを意識づけしていただくか、そこで私今回一つの提案がございます。

お手元にある資料も見ていただければと思いますが、現在ロコモチャレンジ推進協議会が行っているこのような方法のテストがございます。実際に体を使って簡単にロコモ度がわかるテストでございます。1つ目の「立ち上がりテスト」は、40センチ、30センチ、20センチ、10セ

ンチの台を準備していただき、それに腰かけ、片足または両足で決まった高さから立ち上がれるかどうかで下肢の筋肉をはかるものでございます。もう一つの「2ステップテスト」は、歩幅を測定することで下肢の筋力、柔軟性などを含め、歩行能力を総合的に評価するものでございます。この簡単にできるロコモ度テストを、私は市として実施してみてもとありますが、お考えはいかがでしょうか、お願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 岩見次長。

▼○健康福祉部次長（岩見喜久子君）▽ ロコモ度テストの実施についてですが、自分自身の運動機能を正しく知ることは運動を習慣化する動機づけとして効果の高いものと考えますし、また日常的に運動することをふやすことは健康やすぎ21の掲げる目標指標の一つでもあります。地域の保健活動やイベント等でロコモ度テストも活用していきたいと思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 今の答弁をお聞きしますと、実施されるんですね。

▼○議長（田中武夫君）▽ 岩見次長。

▼○健康福祉部次長（岩見喜久子君）▽ はい、先ほど申し上げましたように、地域の活動等で使っていきたいと思っております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ このテストは予算や準備がほとんどかからないわけです。市のやる気があればすぐにできると思っておりますので、先ほど答弁いただいたように、大小問わずさまざまなイベントなどで実施していただければ、運動をしなくてはならないという市民の意識改革につながり、医療費、介護費用の削減にもつながると思っております。今まで私は、きょうは健康マイレージということが出ましたが、私は健康ポイント制度の導入やICTを使った健康増進政策を提案しましたが、いまだ現実に実施はされておられません。「第3次健康やすぎ21」の案を見ても、給食センターの利活用を除くと目新しいものはほとんど見られないようです。当初評価の高かった「健康やすぎ21」ですが、他自治体が先進的な取り組みを取り入れていく今、このままではおくれをとることになるかもしれません。私は、市として健康増進政策も抜本的に見直す時期に来ていると考えますので、まずは今回のこのロコモ度テストからよろしく願っています。

それでは、最後の項目、「道路標識等の点検について」質問をいたします。

最近ニュースで、老朽化した道路標識が突然倒れ、子供がけがをしたという報道がございました。私の周りでも、2年ほど前だったと思っておりますが、隣の自治会で道路脇にあるカーブミラーが根元から突然折れ、道路に倒れているので至急に対応してほしいとの連絡があったことがございます。

そこで、お尋ねしたいと思います。

市が管理する道路標識等、これは道路標識やカーブミラー、ガードパイプ、その他も含め幾つありますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 小林基盤整備部長。

▼○基盤整備部長（小林勝則君）▽ 市道における標識でございますが、道路案内標識が52基、道路照明灯は234基、カーブミラーが860基、ガードレールの延長は5万4,570メートル、ガードパイプの延長が2万1,658メートルございます。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 道路標識は52ということですが、警察などが管理している交通標識はないと思います。市が管理しているのは、ここの道は傾斜何度ですよとか、結構黄色い表示とかのものが多分多いのかなと思っております。ここを見ると、カーブミラーが860あるという、非常にたくさんあるなという印象を改めて受けたわけですが、さまざまなもの、古いものが多分たくさんあると思いますが、点検はそれぞれどのようにしておられますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 小林部長。

▼○基盤整備部長（小林勝則君）▽ 点検のほうでございます。

国の点検要領に基づきまして実施してます定期点検や、道路パトロールによります通常点検時に目視、また触診、実際手でさわったり打音、ハンマー等でたたいて反射の音により診断し、状態の確認をしているところであります。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ そうしますと、今後の点検、更新計画はどのように考えておられますでしょうか、お答えをお願いいたします。

▼○議長（田中武夫君）▽ 小林部長。

▼○基盤整備部長（小林勝則君）▽ 引き続きまして、道路パトロールや定期点検作業を行いまして、不良箇所や老朽化箇所等におきましては路線形態や交通量等を検討、配慮しながら計画的に修繕工事をしてまいりたいと考えております。

▼○議長（田中武夫君）▽ 作野議員。

▼○4番（作野幸憲君）▽ 非常に多い質問をさせていただきましたが、準備しておりましたものは全部お答えいただきました。

残った時間で、最近私が一番うれしかったことを紹介しておきたいと思います。実は知り合いの方から、息子さん家族がUターンで帰ってきたいので何とかならないかという相談を9月末に受けました。それで、私は早速市の定住サポートセンターに紹介をしましたところ、支援員さんの方の熱心な助言、指導をいただいたようで、先月末にどうも金融関係の仕事のほうに息子さんの就職が決まったということで連絡を受けました。早ければ来年早々にも若いご夫婦、子供さん2人の家族が安来に戻ってこられると、本当にこの定住施策の体制が整ってきた一つの要因かなと思いました。このように親切丁寧な、そして親身になった対応が、安来市へのUターン者を私は必ずふやしていくと思っております。本来ならば総合戦略の中で年次的にふやしていけるようなUターン者とかが設定されれば、私は現実味がすごくあると思うわ

けですが、担当部局としてはとにかく地道に活動をしていただいて、一人でも多い皆さん方のUIターンを実現していただければと思います。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

▼○議長（田中武夫君）▽ 以上で4番作野幸憲議員の質問を終わります。